



熊本走ろう会での金栗氏

金栗氏が持つ偉大な記録

日本人で初めてオリンピック出場（通算3回）

・第5回ストックホルム大会

金栗四三氏の功績

日本人初のオリンピック選手（マラソン）で、健康マラソンの普及や箱根駅伝の発案をはじめ、日本陸上界の礎を築きました。また、今では当たり前となっている高地トレーニングやインターバルトレーニングに取り組んだほか、女子体育の振興に力を注ぐなど、選手の育成だけでなく老若男女を問わず広くスポーツに親しめるよう、普及に尽力しました。このことから、金栗氏は「日本マラソンの父」として慕われています。生涯に走った距離は、25万キロと言われており、これは地球6周と4分の1の距離に相当します。

「体力・氣力・努力」で 駆け抜けた25万キロの軌跡 （生い立ち）

・第7回アントワープ大会
・第8回パリ大会

マラソン世界最速記録

54年8月6日5時間32分20秒3

3度の世界記録を更新

2時間19分20秒3（最高タイム）

明治24年

玉名郡春富村大字中林（現和水町）で父信彦・母シエの間に生まれる（※父信彦が43歳の時生まれたので四三と命名された）

明治30年

春富村吉地尋常小学校入学
旧制玉名中学校（現県立玉名高等学校）へ入学

明治38年

東京高等師範学校（現筑波大学）へ入学（校長は嘉納治五郎氏）

明治43年

オリンピック国内予選で世界記録2時間32分45秒達成

明治44年

第5回オリンピックストックホルム大会に日本人初の出場。暑さのため意識を失い26.7km地点で倒れる

明治45年

第1回陸上競技選手権大会に出場し世界記録2時間31分28秒達成

大正3年

池部家の養子となり春野スヤと結婚（※終生「金栗」を名乗る）

大正5年

第6回オリンピックベルリン大会 第1次世界大戦で中止

大正6年

日本初の駅伝「箕都記念東海道五十三次駅伝競走」を企画し、アンカーを務め優勝

大正9年

第1回関東大学箱根往復駅伝競走を開催

大正13年

第7回オリンピックアントワープ大会出場し16位2時間48分45秒

昭和6年

第8回オリンピックパリ大会出場。32.3km地点で意識不明となり落伍。大会後第一線から引退

昭和20年

九州一周走破。学校を巡り、学校対抗のマラソン大会や駅伝競走の普及に尽力する

昭和21年

故郷へ
熊本県体育会 初代会長に就任（昭和26年県体育協会となる）

昭和22年

第1回金栗賞朝日マラソンを熊本市で開催（のちの福岡国際マラソン選手権大会となる）

昭和27年

九州一周駅伝企画
スウェーデンオリンピック委員会の招きによりスウェーデン訪問。明治45年7月14日のスタートから54年8月6日5時間32分20秒3でゴールを果たす。（※世界で最も遅いマラソン記録とされている）

昭和42年

92歳で永眠

昭和58年

4月27日（木）、三加和公民館で東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアアのセレモニーが開催されました。オリンピックに日本人で

和

水町に「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグ」がやってきました

（金栗四三氏上映会も同時開催）



三加和中の生徒が、貴重な東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグとともに写真を撮りました

オリンピック国内予選会優勝時の記念写真
明治44年（1911）11月 2時間32分45秒
当時の世界記録を27分も縮める大記録で優勝した

2019年NHK大河ドラマ 金栗四三氏 主人公に決定!!

日本人初のオリンピック選手・箱根駅伝創設者
和水が生んだ「日本マラソンの父」

金栗 四三



このたびNHKから、2019年大河ドラマの主人公に日本初のオリンピック選手で本町出身の金栗四三氏（1891～1983年）と水泳指導者の田畑政治氏（1891～1984年）を選んだという発表がありました。

タイトルは「いだてん～東京オリムピック噺～」。宮藤官九郎さん脚本で、金栗役を演じるのは中村勘九郎さんです。1912年、金栗氏が日本人として初めてオリンピックに参加したストックホルム大会から、1964年東京大会までの激動の52年が描かれます。

郷土が生んだ英雄「金栗四三」の偉大な足跡と数々の功績を、再認識していただきたいと思います。